

平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月14日

上場会社名 株式会社RVH 上場取引所 東  
 コード番号 6786 URL <http://rvh.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 沼田 英也  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 益田 倫孝 TEL 03-4579-9755  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		税金等調整前 四半期純利益		親会社株主に帰属 する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	26,734	27.3	360	△81.6	436	△79.0	381	△81.5	△262	—
29年3月期第2四半期	20,999	314.1	1,956	208.4	2,079	222.3	2,062	297.2	1,136	186.0

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 △261百万円 (-%) 29年3月期第2四半期 1,134百万円 (187.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	△15.52	—
29年3月期第2四半期	80.50	80.05

(注) 1. 前連結会計年度まで消費税免税事業者であった株式会社ミュゼプラチナムは、第1四半期連結累計期間より消費税課税事業者となったため、消費税の会計処理を税込方式から税抜方式に変更しております。  
 2. 前年同四半期との比較において、売上高の増加要因は、主に、前連結会計年度末に連結子会社化した株式会社不二ビューティの業績が第1四半期連結累計期間の期首より寄与したことなどによるものであります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	73,976	10,342	14.0	617.22
29年3月期	69,667	10,703	15.4	632.56

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 10,342百万円 29年3月期 10,703百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,000	25.2	1,730	△34.2	1,850	△33.8	630	△25.1	37.34
	～53,700	～29.3	～2,460	～△6.4	～2,610	～△6.7	～890	～5.8	～52.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

1株当たり当期純利益の算出上用いた期中平均株式数は16,821,527株であります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）—、除外 一社（社名）—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期2Q	16,926,560株	29年3月期	16,926,560株
② 期末自己株式数	30年3月期2Q	169,600株	29年3月期	5,600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期2Q	16,885,741株	29年3月期2Q	14,119,854株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額の表示単位の変更）

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローに関する説明	5
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計方針の変更)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、政府による経済政策を背景に企業収益や雇用・所得環境の改善等がみられ、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、世界経済の不確実性や地政学リスクの高まりによる国内景気への影響が懸念され、先行きは依然として不透明な状況にあります。

美容エステティック業界におきましては、近年の市場規模は概ね横ばいで推移する一方、少子高齢化等の影響によるエステティシャン不足が続いており、人材確保が重要な課題となっています。これに加え、美容系ホームケア家電やフィットネスジム等の異業種とも競合するなど、競争は激化傾向にあり、チェーン展開を行うエステティックサロンの多くが、既存店舗の収益性確保のため、出店ペースの鈍化または現状維持、統廃合等を進める傾向にあります。

このような状況の下、当社グループは、主力である美容事業において、業界最大規模を有する優位性を活用し、更なる収益拡大によるグループ企業価値の向上を目的とした事業戦略および成長部門への積極投資を実行するとともに、各事業分野が有する顧客基盤、技術基盤、サービス基盤を活用したシナジーの最大化に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高26,734百万円（前年同期比27.3%増）、営業利益360百万円（同81.6%減）、経常利益436百万円（同79.0%減）、税金等調整前四半期純利益381百万円（同81.5%減）となり、法人税等合計643百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失262百万円（前年同四半期は1,136百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

なお、法人税等合計643百万円の内、法人税等調整額は557百万円ですが、これは主に、ミュゼプラチナム社における旧会社からの事業譲受により生じた税務上ののれんにつき、税務上の損金算入額に応じて、対応する繰延税金資産を取り崩している影響によるものであります。

	報告セグメント						調整額		四半期連結損益計算書計上額	
	美容		メディア・コンサルティング		システム開発					
	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
セグメント売上高	24,191	44.5	4,309	△33.1	516	12.7	△2,283	—	26,734	27.3
セグメント損益	194	△88.8	146	△62.5	△0	—	20	—	360	△81.6
(参考) EBITDA	1,780	△34.2	187	△56.7	10	—	21	—	1,999	△33.7

※1 セグメント売上高には、内部売上高を含めております。

※2 セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

※3 EBITDAの算出方法は下記の通りであります。なお、EBITDAは会計上の利益とは異なり、事業（企業）価値を示す指標（参考情報）として、算出しております。

(EBITDA=セグメント利益+減価償却費+のれん償却額)

セグメントの業績は、次のとおりであります。

1) 美容事業

美容脱毛部門においては、美容脱毛サロン「ミュゼプラチナム」及び「コロリー」の運営、自社ブランドの化粧品企画販売、ECサイトの運営、自社広告媒体の販売のほか、アイラッシュサロン「マキア」の運営を行いました。既存ブランド「ミュゼプラチナム」では、積極的な広告宣伝投資により、繁忙期である夏季の顧客契約獲得が連結開始以来最高水準で好調に推移いたしました。また第2四半期より新たな顧客決済手段として信販会社のショッピングクレジット決済を導入し、美容脱毛コースと併せて自社ブランド化粧品の販売を促進させたことで物販売上が大幅に向上いたしました。新ブランド「コロリー」では、翌期以降の売上利益貢献を目指し、引き続き新規顧客契約獲得のための積極的な広告宣伝投資を実施いたしました。

エステティック部門においては、前連結会計年度期末に連結した株式会社不二ビューティによりエステティックサロン「たかの友梨ビューティクリニック」の運営、温浴施設の運営、オリジナル化粧品の開発・販売等を行いました。7月より新たなCMキャラクターにミランダ・カー氏を起用し、幅広い年齢層に向けて「たかの友梨ビューティクリニック」の認知拡大を図るためのブランディング戦略を実施するとともに、ミュゼプラチナムとの相互送客プランに積極的に取り組み、契約獲得が順調に推移いたしました。

「ミュゼプラチナム」ブランドの役務提供売上及び物販売上が好調に推移したこと、株式会社不二ビューティの運営するエステティックサロン「たかの友梨ビューティクリニック」等の業績が当第2四半期連結累計期間の期首より寄与したこと等により、売上高は24,191百万円（前年同期比44.5%増）の増収、上述の新ブランド広告宣伝投資のほか、各ブランドともに契約獲得期である夏季商戦に向けて積極的な広告宣伝活動を実施したこと、前連結会

計年度第4四半期のM&Aにより短期的に店舗数・従業員数の大幅拡充を実現し、人件費、地代家賃等の費用が前年同期と比較して増加したこと等から、セグメント利益194百万円(同88.8%減)の減益、EBITDA1,780百万円(同34.2%減)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社不二ビューティ他1社の損益を四半期連結損益計算書に含めております。

## 2) メディア・コンサルティング事業

広告代理店部門においては、主に弁護士、司法書士等の士業に対する過払金請求広告サービスとして、出張無料法律相談会の企画・運営サポート、ポスティング・新聞折込広告サービスの提供を行いました。

WEBマーケティング部門においては、グループ内外のWEBサイト企画制作及びSEO対策やリスティング、アフィリエイト等のマーケティングサービスの提供を行いました。

コンサルティング部門においては、「Hot Pepper (ホットペッパー) 本誌」・「Hot Pepper Beauty (ホットペッパービューティー)」の代理店としてグループ内外への広告提案サービスの提供を行いました。

WEBマーケティング部門、コンサルティング部門におけるグループ内広告案件の取扱いが増加傾向である一方、広告代理店部門における過払金請求広告案件が縮小傾向で推移したこと等により、売上高4,309百万円(前年同期比33.1%減)、セグメント利益146百万円(同62.5%減)、EBITDA187百万円(同56.7%減)となりました。

## 3) システム開発事業

システム開発事業は、システムエンジニアリング及びバックオフィスに係る人材派遣、PCデータ消去&リサイクルサービス、組込系システムの受託開発、サーバ構築・運用・保守、医用画像表示ソフト「FVT-air」の販売等を行うとともに、当社グループの技術センターとして、開発体制のグループ内製化によるコスト削減に向けた取り組みを推進いたしました。

システム開発事業は例年同様下期偏重傾向での推移が見込まれるものの、外部売上が好調であったこと、グループ各社の開発体制の一部内製化に取り組んだこと等から、増収及び赤字幅縮小となりました。

この結果、売上高516百万円(前年同期比12.7%増)、セグメント損失0百万円(前年同期はセグメント損失62百万円)、EBITDA10百万円(前年同期は△17百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末において、資産、負債及び純資産は以下の通りとなりました。また、各増減要因は後述の通りであります。なお、勘定科目の名称を一部省略して記載したほか、増減要因は主なものに限定して記載しております。

	平成29年 3月末	平成29年 9月末	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
資産	69,667	73,976	4,308	6.2
負債	58,964	63,633	4,669	7.9
純資産	10,703	10,342	△360	△3.4

(資産の部)

	平成29年 3月末	平成29年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
流動資産	23,142	25,540	2,398	① 現金及び預金	2,736	新規契約の獲得に伴う前受金の増加
固定資産	46,525	48,435	1,910	① 機械装置及び 運搬具(有形 固定資産計)	△238	美容設備の更新
				② のれん	2,052	事業譲受対価の見直し

(負債の部)

	平成29年 3月末	平成29年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
流動負債	42,140	47,114	4,974	① 買掛金	△706	仕入債務の支払
				② 短期借入金	△503	
				③ 1年内返済予 定の長期借入 金	△71	有利子負債の返済
				④ 前受金	6,159	新規契約の獲得に伴う前受金の増加
				⑤ 賞与引当金	136	従業員賞与の引当
固定負債	16,823	16,519	△304	① 長期預り金	△140	優良顧客囲い込みのための特別会員 保証金の減少
				② その他	△110	資産除去債務の通常償却、他

(純資産の部)

	平成29年 3月末	平成29年 9月末	増減額	当第2四半期連結累計期間における主な増減内訳		
				内容	百万円	主な要因
	百万円	百万円	百万円			
株主資本合計	10,695	10,334	△360	① 資本剰余金	△283	欠損填補のための資本準備金の一部 取崩し
				② 利益剰余金	21	欠損填補、並びに親会社株主に帰属 する四半期純損失の計上
				③ 自己株式	△98	自己株式の市場買付けによる増加
その他の包括利益 累計額	7	8	0	① その他有価証 券評価差額金	0	その他有価証券に係る為替差益

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）については、以下の通りとなりました。

(現金及び現金同等物)

	平成29年 3月	平成29年 9月	前連結会計 年度末比 増減額
	百万円	百万円	百万円
現金及び現金同等物	2,919	5,617	2,698

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

	平成28年 9月累計	平成29年 9月累計	前年同期比 増減額	当第2四半期連結累計期間における主な内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
営業活動による キャッシュ・フロー	2,729	3,839	1,110	①	税金等調整前四半期純利益	381
				②	減価償却費、のれん償却額	1,639
				③	事業譲受対価の見直しに伴う債権債務の増減額	△4,488
				④	前受金の増加	6,159
				⑤	法人税等の還付額	589
				⑥	取引先支援金の支払額	△448

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

	平成28年 9月累計	平成29年 9月累計	前年同期比 増減額	当第2四半期連結累計期間における主な内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
投資活動による キャッシュ・フロー	△653	△284	369	①	敷金及び保証金の回収による収入	591
				②	貸付金の回収による収入	85
				③	有形固定資産の取得による支出	△666
				④	貸付けによる支出	△260

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

	平成28年 9月累計	平成29年 9月累計	前年同期比 増減額	当第2四半期連結累計期間における主な内訳		
				内容	百万円	
	百万円	百万円	百万円			
財務活動による キャッシュ・フロー	△250	△857	△606	①	短期借入金の減少額	△601
				②	割賦債務の返済による支出	△129
				③	自己株式の取得による支出	△98

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の連結業績予想につきましては、平成29年8月14日に公表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,420	6,157
受取手形及び売掛金	10,006	10,443
商品及び製品	1,178	1,291
原材料及び貯蔵品	445	521
仕掛品	54	74
未収入金	5,464	5,016
短期貸付金	500	644
関係会社短期貸付金	5	—
繰延税金資産	110	209
その他	1,991	1,210
貸倒引当金	△35	△26
流動資産合計	23,142	25,540
固定資産		
有形固定資産	9,506	9,309
無形固定資産		
のれん	22,945	24,997
その他	686	591
無形固定資産合計	23,631	25,589
投資その他の資産		
投資有価証券	1,664	1,661
長期貸付金	1,152	1,030
繰延税金資産	6,273	7,127
その他	4,633	4,046
貸倒引当金	△336	△329
投資その他の資産合計	13,387	13,536
固定資産合計	46,525	48,435
資産合計	69,667	73,976



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,841	2,134
短期借入金	817	313
1年内返済予定の長期借入金	331	260
未払法人税等	49	46
前受金	31,526	37,685
賞与引当金	252	388
ポイント引当金	41	31
繰延税金負債	44	—
その他	6,234	6,252
流動負債合計	42,140	47,114
固定負債		
長期借入金	316	267
長期預り金	16,129	15,989
退職給付に係る負債	129	124
その他	247	137
固定負債合計	16,823	16,519
負債合計	58,964	63,633
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,678	1,678
資本剰余金	6,593	6,310
利益剰余金	2,428	2,449
自己株式	△5	△103
株主資本合計	10,695	10,334
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	8
その他の包括利益累計額合計	7	8
純資産合計	10,703	10,342
負債純資産合計	69,667	73,976

( 2 ) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 ( 四半期連結損益計算書 )  
 ( 第 2 四半期連結累計期間 )

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日 )	当第 2 四半期連結累計期間 ( 自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日 )
売上高	20,999	26,734
売上原価	4,946	4,445
売上総利益	16,053	22,289
販売費及び一般管理費	14,096	21,928
営業利益	1,956	360
営業外収益		
受取利息	5	14
受取配当金	4	2
受取賃貸料	51	15
業務受託料	18	47
還付加算金	43	11
その他	24	23
営業外収益合計	148	114
営業外費用		
支払利息	22	28
その他	2	9
営業外費用合計	25	38
経常利益	2,079	436
特別利益		
固定資産売却益	—	3
特別利益合計	—	3
特別損失		
寄付金	—	16
固定資産除却損	2	3
減損損失	13	31
その他	—	7
特別損失合計	16	58
税金等調整前四半期純利益	2,062	381
法人税、住民税及び事業税	478	85
法人税等調整額	447	557
法人税等合計	926	643
四半期純利益又は四半期純損失 ( △ )	1,136	△262
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 ( △ )	1,136	△262

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	1,136	△262
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	0
その他の包括利益合計	△2	0
四半期包括利益	1,134	△261
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,134	△261
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,062	381
減価償却費	611	758
のれん償却額	447	880
その他の償却額	86	75
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	88	△15
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△83	136
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△1	△5
受取利息及び受取配当金	△9	△16
支払利息	22	28
減損損失	13	31
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,972	△436
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△0	△209
前払費用の増減額 (△は増加)	136	△61
立替金の増減額 (△は増加)	△794	329
未収入金の増減額 (△は増加)	572	446
仕入債務の増減額 (△は減少)	860	△705
未払金の増減額 (△は減少)	△2,413	598
前受金の増減額 (△は減少)	12,177	6,159
未払費用の増減額 (△は減少)	183	102
預り金の増減額 (△は減少)	△50	△305
事業譲受対価の見直しに伴う債権債務の増減額	△9,023	△4,488
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	13	△66
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△19	191
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	131	△1
その他	6	△4
小計	3,047	3,804
利息及び配当金の受取額	4	13
利息の支払額	△22	△29
取引先支援金の支払額	—	△448
法人税等の支払額	△302	△89
法人税等の還付額	2	589
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,729	3,839
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	△13	△38
有形固定資産の取得による支出	△205	△666
無形固定資産の取得による支出	△45	△69
貸付けによる支出	△350	△260
貸付金の回収による収入	0	85
敷金及び保証金の差入による支出	△70	△69
敷金及び保証金の回収による収入	31	591
長期貸付金の回収による収入	—	121
その他	△0	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△653	△284

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△152	△601
長期借入れによる収入	—	40
長期借入金の返済による支出	△65	△63
割賦債務の返済による支出	—	△129
リース債務の返済による支出	△45	△4
自己株式の取得による支出	—	△98
株式の発行による収入	13	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△250	△857
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,825	2,698
現金及び現金同等物の期首残高	737	2,919
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,563	5,617

( 4 ) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

( 継続企業の前提に関する注記 )

該当事項はありません。

( 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 )

該当事項はありません。

( 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 )

該当事項はありません。

( 会計方針の変更 )

該当事項はありません。

( 会計上の見積りの変更 )

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	美容	メディア・コン サルティング	システム開発	計		
売上高						
外部顧客への売上高	16,736	3,807	455	20,999	—	20,999
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	2,638	3	2,642	△2,642	—
計	16,736	6,446	458	23,641	△2,642	20,999
セグメント利益又は損失 (△)	1,739	389	△62	2,066	△109	1,956

(注) 1. セグメント損益の調整額には、セグメント間取引消去68百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△178百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「美容」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第2四半期連結累計期間において、のれんが5,893百万円増加しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	美容	メディア・コン サルティング	システム開発	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24,191	2,045	497	26,734	—	26,734
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	2,264	18	2,283	△2,283	—
計	24,191	4,309	516	29,017	△2,283	26,734
セグメント利益又は損失 (△)	194	146	△0	340	20	360

(注) 1. セグメント損益の調整額20百万円には、セグメント間取引消去119百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△99百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント損益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「美容」セグメントでの事業譲受対価の変動により、当第2四半期連結累計期間において、のれんが2,933百万円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。